



学校種別をふまえた 機動的な教育プラットフォーム

- 京都市の教育現場における業務負担軽減のために -

同志社大学政策学部野田ゼミA班

教員業務の現状分析

教員のオーバーワーク問題

勤務時間

1000人以上の企業の平均	小中高の教員
7時間48分	10時間42分

教員の長時間労働が問題

引用：厚生労働省「令和4年就労条件総合調査の概況」
文部科学省「令和4年教員勤務実態調査」

教員のオーバーワーク問題

業務量
の増加

教員数
の減少

オーバーワーク

京都市で行われている政策 (オーバーワーク対応)



校務支援員



部活動支援員



専科指導員



ボランティア

他都市の事例研究

他都市の事例 (オーバーワーク対応)

「責任の所在は？」
「新たな業務が増える可能性」
「計」

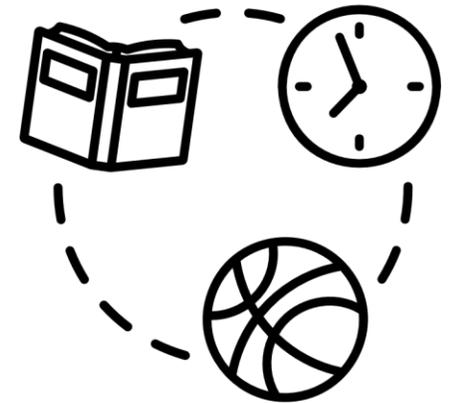
これらのオーバーワーク対応は
京都市でも行われている

家庭内事情
による
経済的格差

飛躍的な負担軽減策ではない



現場の実態が**不明確**



業務実態の把握



負担軽減策



教員の業務実態と オーバーワークの根源把握

プレ**教員**インタビュー調査

プレ**教員**インタビュー～業務分類～

06 部活動

部活動/遠征・派遣・
大会運営参加



01 正課

授業準備/成績処理/HR



02 課外

家庭訪問/出張



05 事務

校務分掌/物品管理
環境・飼育活動



03 対応

生徒の問題対応/電話対応/見守り



04 行事関連

修学旅行/地域系イベント
学校内イベント



アンケート調査

小中高別の教員負担

京都市における業務負担の小中高別比較

総数：54人

小学校

3.3

学校種別の負担軽減策が必要

3.1

高校
(n=13)

2.58

0 0.5 1 1.5 2 2.5 3 3.5

調査対象：京都市教員

(野田ゼミ調査)

インタビュー調査

正規時間と認知時間による業務時間の分析

正規時間と認知時間による業務時間の分析

6つの業務類型



身体的負担

正規時間



心理的負担

認知時間に定義



正規時間

6つの業務に実際どれほど費やしているかの
負担度合い

どちらも負担の度合いを
時間に換算

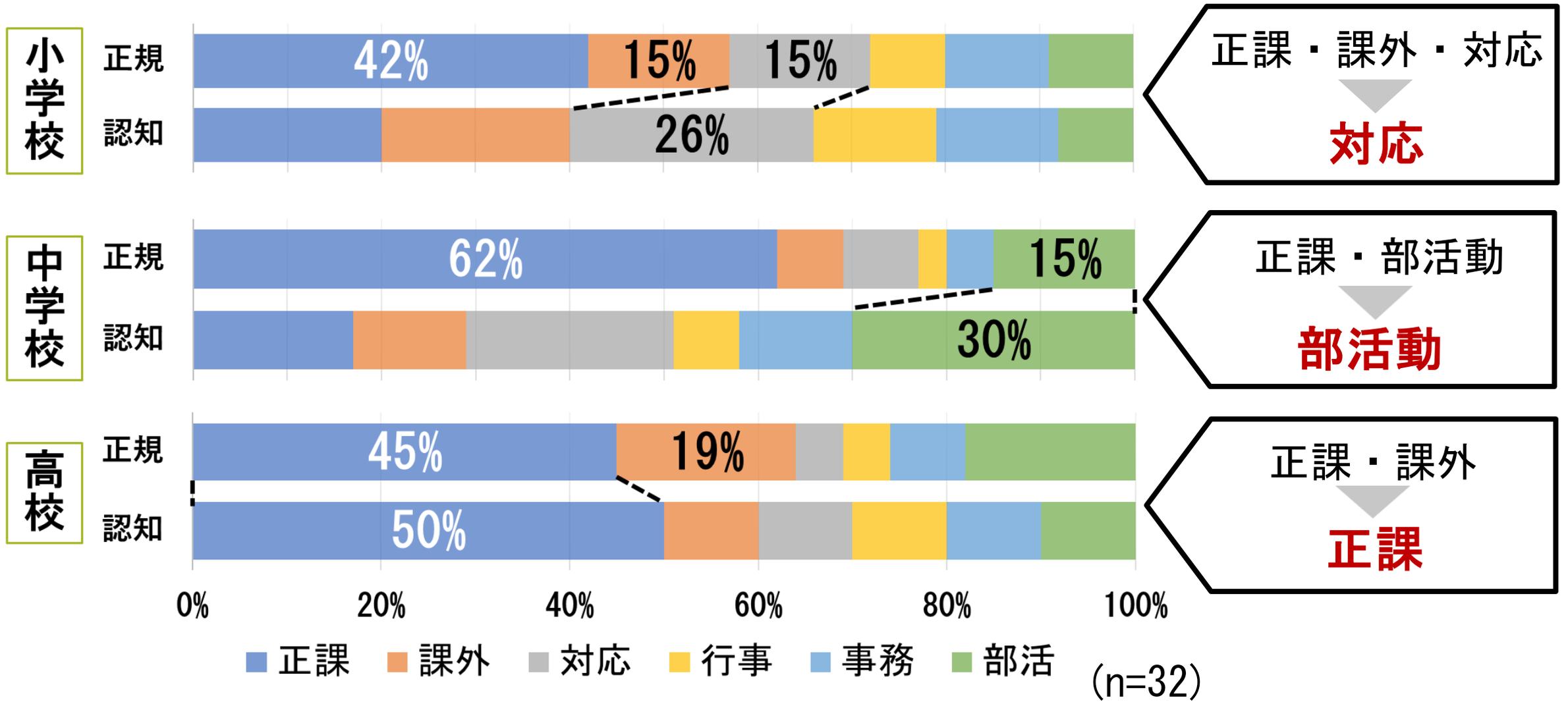


認知時間

6つの業務にどれほど費やしていると
感じるかの主観的な負担度合い

※ 1日12時間働くと仮定

京都市の学校における業務別正規時間と認知時間



小学校



対応

成績処理 } 保護者対応
学校生活 }

➔ 対応の心理的負担が大きい

中学校



部活動

土日の試合・練習などの負担
専門・志向ではない部活の顧問

➔ 部活動の負担が大きい

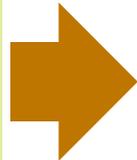
中学校

ただし・・・



部活動指導がなければ
教員を目指さなかった

部活動指導がやりがい



教員にとってやりがいを感じる業務でもある

高校



正課

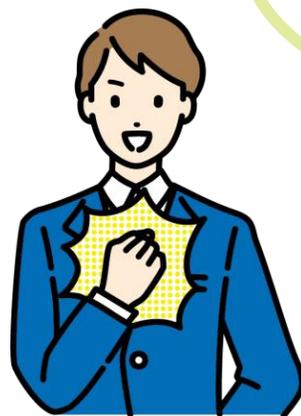
進路指導の負担



進路指導を中心として
正課の負担が大きい

高校

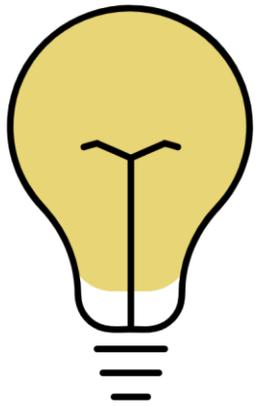
ただし…



進路指導はやりがいに感じる

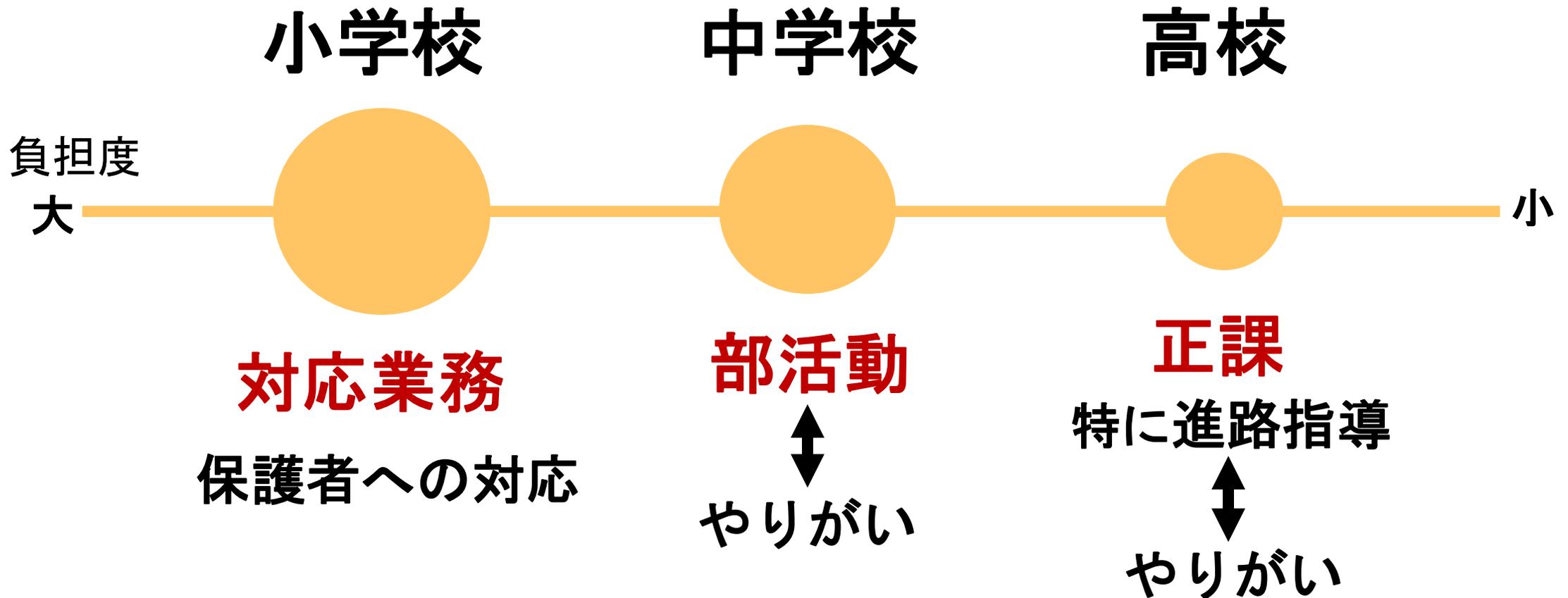
➡ 教員にとってやりがいを感じる業務でもある

小中高別教員の業務負担と 正規・認知時間による分析から

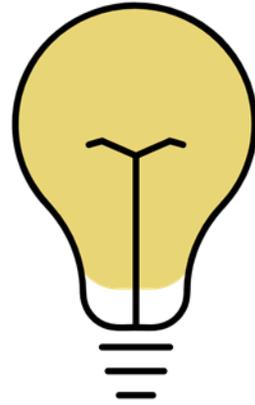


各課題に対応する
プラットフォームが必要

小中高別教員の業務負担と 正規・認知時間による分析



政策提言



機動的な教育プラットフォーム

負担軽減策

機動的な教育プラットフォーム

小学校

課題：対応業務



心理的負担解消戦略

中学校

課題：部活動業務



情熱シェア戦略

高校

課題：正課の業務



成績評価基盤戦略

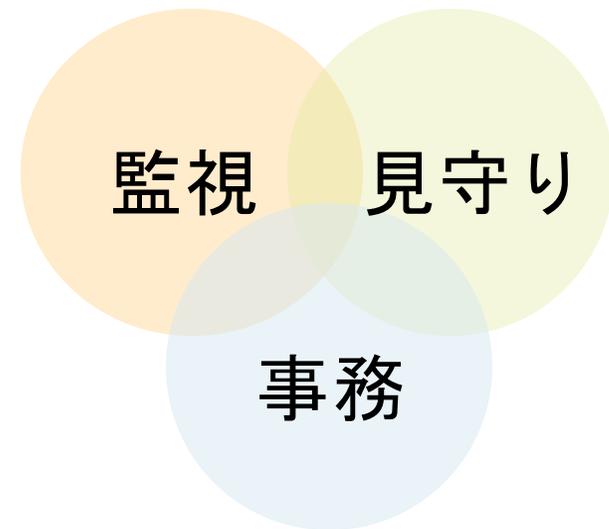
心理的負担解消戦略（小学校）

ペーパーティーチャー

教員免許を持ちながら
教職についていない人材

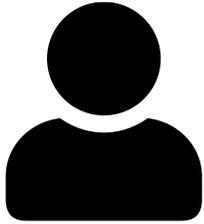


間接的に対応業務の
負担軽減

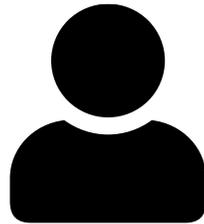


心理的負担解消戦略（小学校）

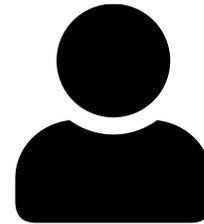
ペーパー
ティーチャー



情報登録・応募



情報登録・応募



情報登録・応募

相互性

プラットフォーム（小学校）



募集要項・
スカウト



教員
（小学校）



募集要項・
スカウト



募集要項・
スカウト



ペーパーティーチャー人材の確保

京都市で305人に
街頭インタビューしたところ…

教員免許を持っている

13%

- 教員免許を持っていない
 - 教員免許を持っている
- (n=305)

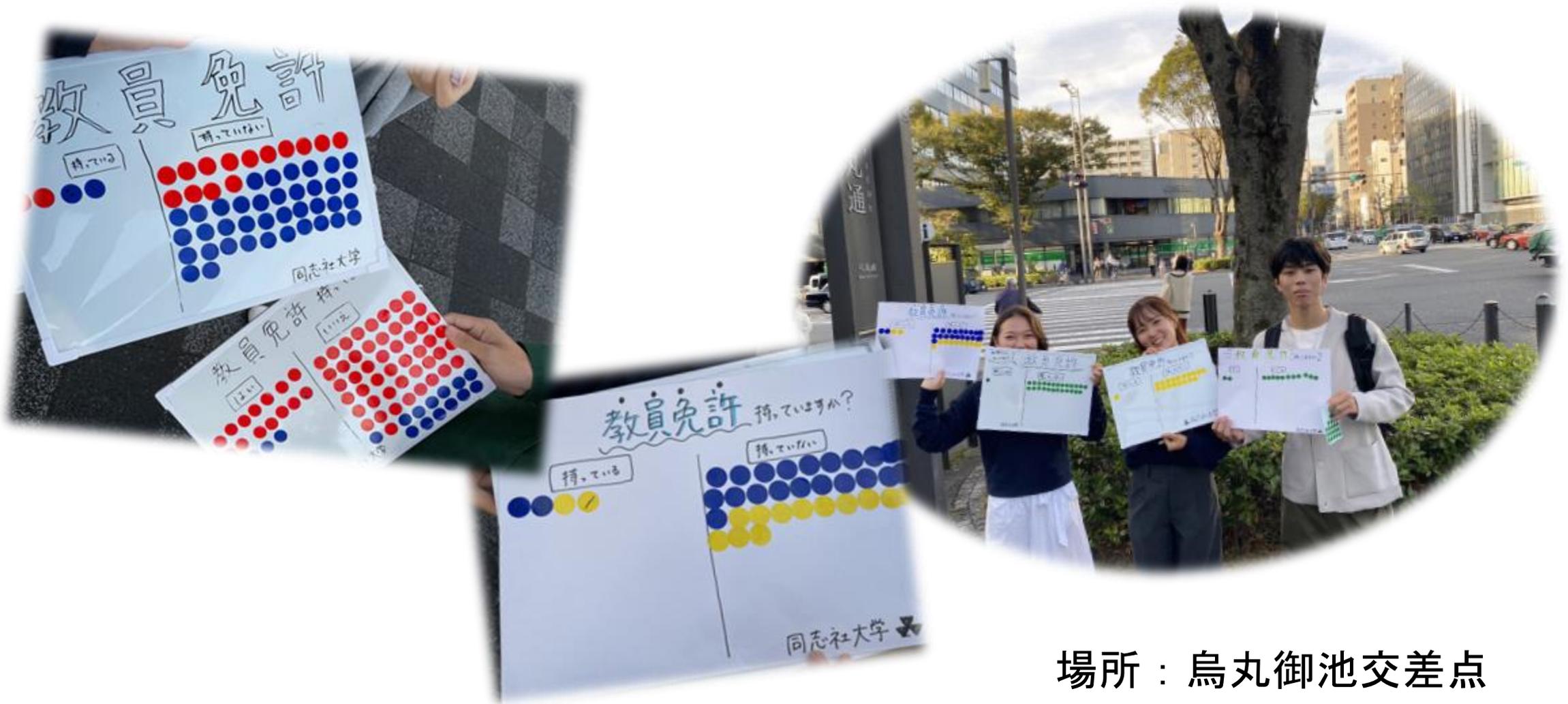
条件によっては働きたい

23%

- 働ける人
- 働けない人

調査対象：京都市民
(野田ゼミ調査)

街頭インタビューの様子



場所：烏丸御池交差点

ペーパーティーチャー人材の確保

京都市で305人に
街頭インタビューしたところ…

教員免許を持っている

13%

- 教員免許を持っていない
 - 教員免許を持っている
- (n=305)

条件によっては働きたい

23%

- 働ける人
- 働けない人

調査対象：京都市民
(野田ゼミ調査)

ペーパーティーチャー人材の算出方法

過去5年間の数値で計算

教員免許授与数 — 新規採用者数 = ペーパーティーチャー

条件によっては働きたい

府内に占める市内人口

京都府における
ペーパー
ティーチャー

×0.23

京都府
活用可能な
ペーパーティー
チャー

×0.57

京都市
活用可能な
ペーパーティー
チャー

ペーパーティーチャー人材の算出方法

×0.23

×0.57

	教員免許 授与数	新規採 用者数	ペーパー ティーチャー =PT	活用可能なPT (京都府)	活用可能なPT (京都市)
H29年	7822	368	7454	1714	976
H30年	7816	312	7504	1725	983
R1年	7099	372	6727	1547	881
R2年	6443	420	6023	1385	789
R3年	6483	426	6057	1393	794

野田ゼミ調査筆者作成

京都市内で**4423**人(直近5年間)のペーパーティーチャーが確保可能

既存システムとの比較

既存

● 校務支援員

…事務的な業務の支援

教員免許の有無は関係ない

● 専科指導員

…特定の教科を代わりに指導

正課に含まれる指導業務が中心

提案

● ペーパーティーチャー

教員免許保持者

保護者からの信頼
柔軟な対応

対応業務に配置

認知負担度合いが
高い業務に配置

負担軽減策

機動的な教育プラットフォーム

小学校

課題：対応業務



心理的負担解消戦略

中学校

課題：部活動業務



情熱シェア戦略

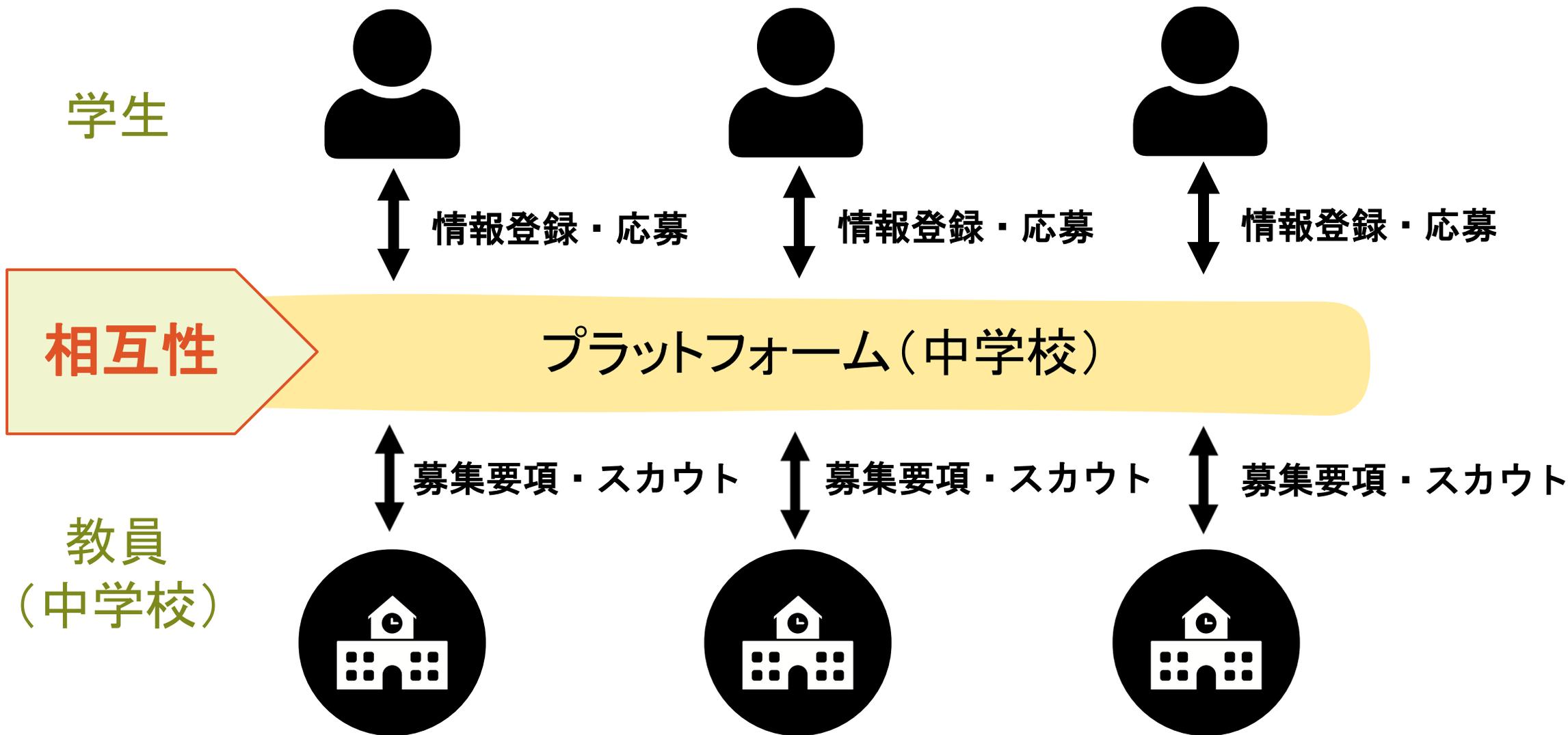
高校

課題：正課の業務



成績評価基盤戦略

情熱シェア戦略（中学校）



既存システムとの比較

既存

学生ボランティア

学生⇒学校

一方通行方式

提案

プラットフォーム上の学生

学生⇔教員

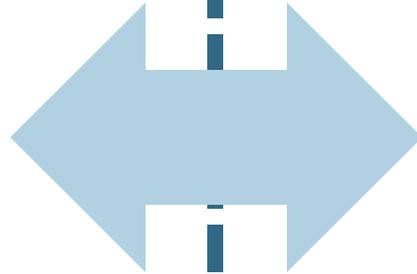
相互性

学生

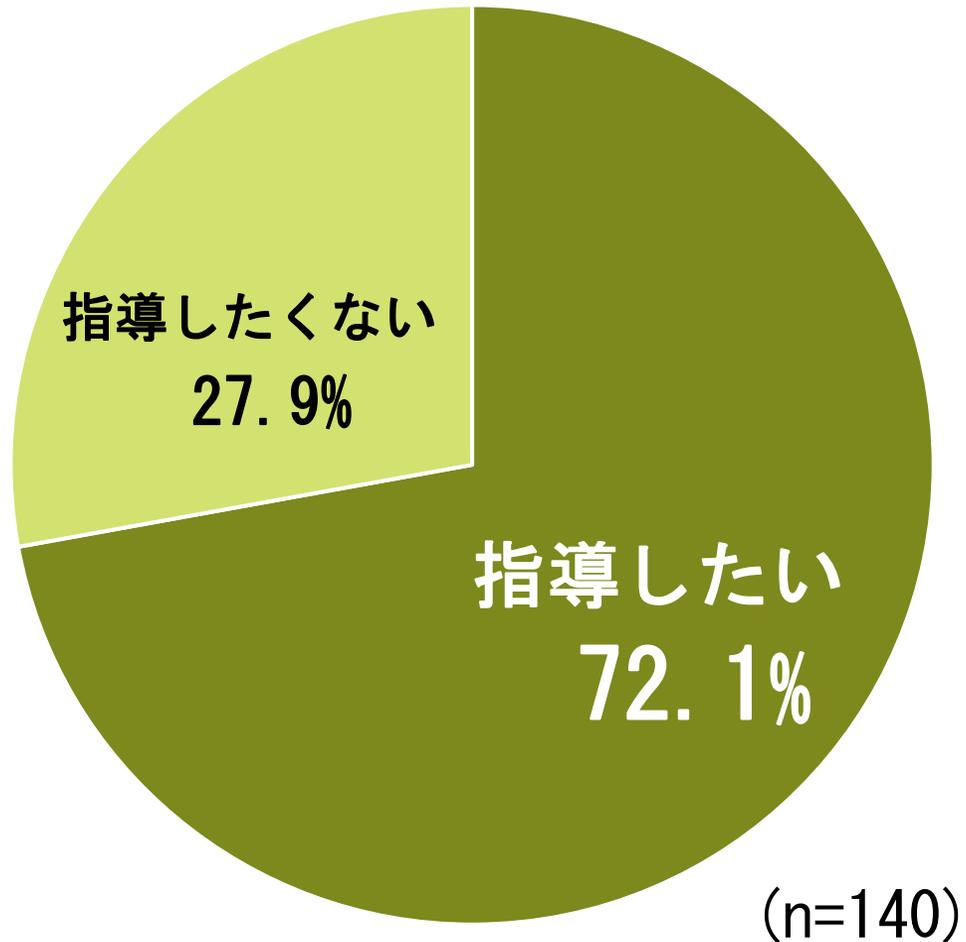
情熱・やる気

教員

情熱・やりがい



子どもたちに部活動を指導する機会があれば参加したいか？



【理由】

- 自身が取り組むスポーツが好きだから
- 子どもが好きだから

調査対象：同志社大学体育会系学生

(野田ゼミ調査)

負担軽減策

機動的な教育プラットフォーム

小学校

課題：対応業務



心理的負担解消戦略

中学校

課題：部活動業務



情熱シェア戦略

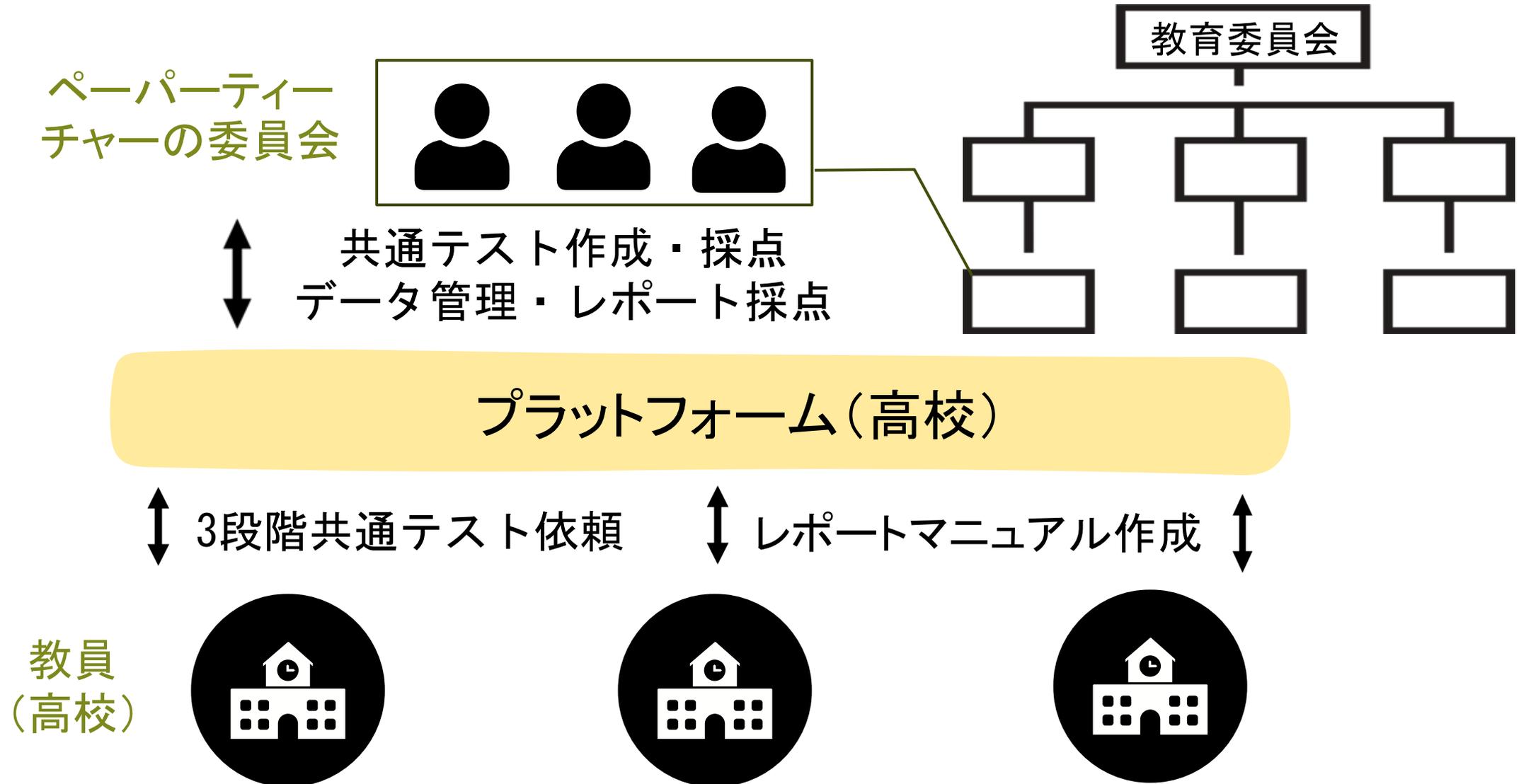
高校

課題：正課の業務



成績評価基盤戦略

成績評価基盤戦略（高校）

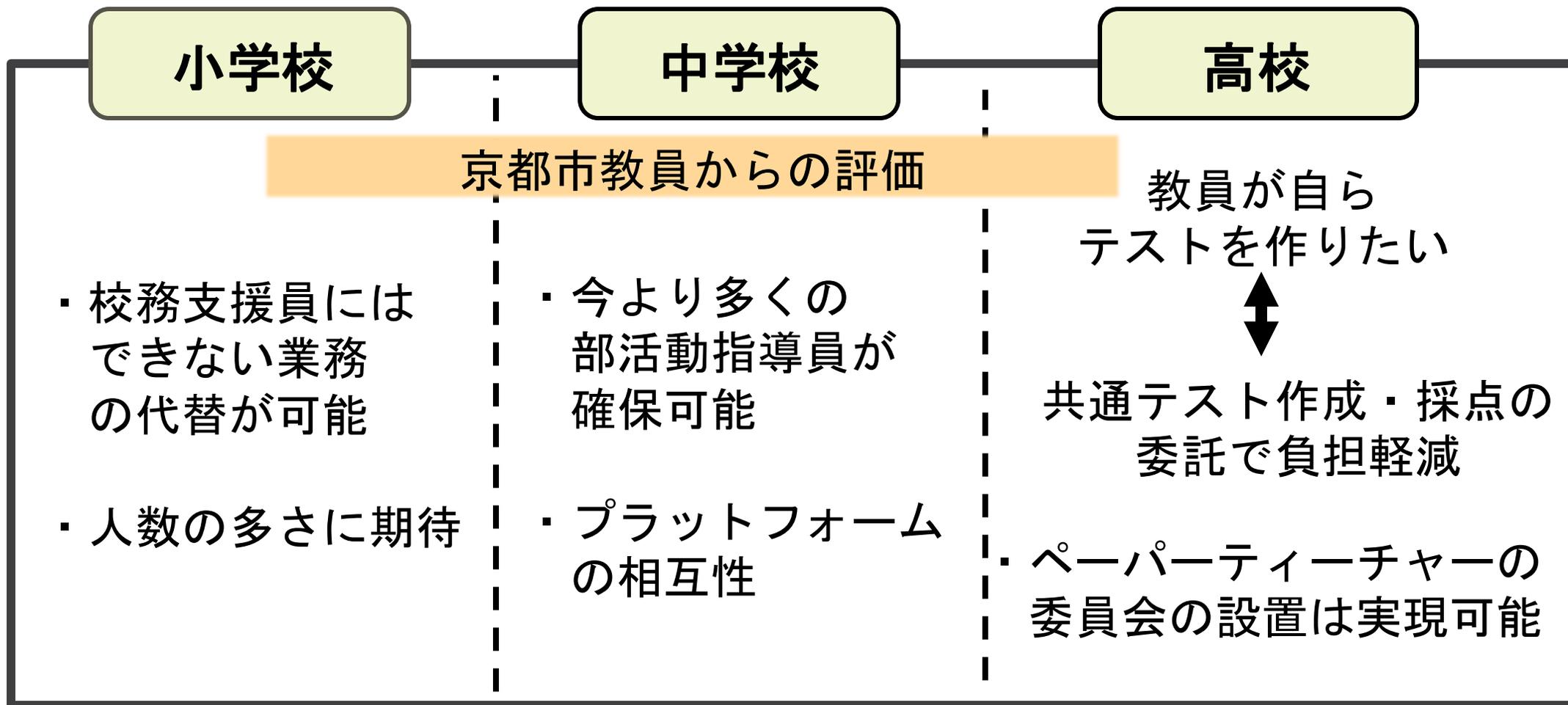


レポートマニュアル作成



政策案の実現可能性評価

小中高の政策案の実現可能性評価

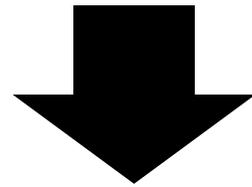


機動的な教育プラットフォーム

ペーパー
ティーチャー
&
学生

+

プラットフォーム



教員の負担軽減

参考文献

(1) 厚生労働省、2022、「令和4年就労条件総合調査の概況」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/jikan/syurou/22/dl/gaikyou.pdf>.

p. 3 (2023. 11. 01 筆者閲覧)

(2) 文部科学省、2023、「教員勤務実態調査」

https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt_zaimu01-000029160_1.pdf.

P. 1 (2023. 11. 01 筆者閲覧)

(3) 大島隆太郎 (2023) 『日本型学校システムの政治経済学』、有斐閣、p. 275-276.

(4) 文部科学省・業務改善のためのタスクフォース (2016) 「学校現場における業務の適正化に向けて」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/uneishien/detail/__icsFiles/afieldfile/2016/06/13/1372315_03_1.pdf. (2023. 10. 16 筆者閲覧)

ご清聴ありがとうございました。